

## 2010年度の活動報告

2011年6月

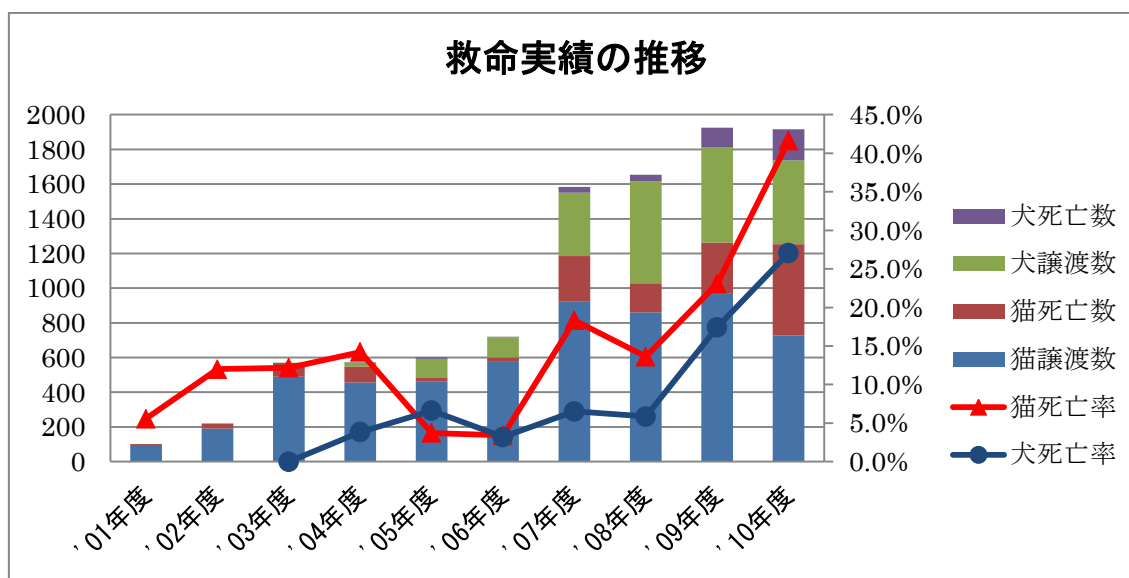
NPO 法人犬と猫のためのライフポート

当期、ライフポートの活動を支援していただいている多方面の皆様にも、まずご報告しなければならないことがあります。それは、行政から受け入れた子犬子猫の多数を飼育管理技術の未熟さ故に死亡させてしまったことと、里親さんにお渡しすることの出来た犬猫(譲渡実績)は激減させてしまったことです。

子犬子猫の受入れにご協力いただいた行政機関の皆様、支援を寄せてくださった多くの方々、多数の死亡事故に直面せざるを得なかった飼育職員達、そして何よりも「せつかくライフポートまで辿り着きながら、その生きる機会を奪ってしまった犬猫達」に対し、心より申し訳なく思っております。

なお、上記については既に11月に上半期活動報告としてご報告しておりましたが、その後改めて検証を行った上での報告となります。そのため上半期活動報告とは異なる点があることをご了承下さい。

年度	犬			猫		
	受入	譲渡	死亡	受入	譲渡	死亡
2007年度	474	366	34	1,158	883	260
2008年度	617	588	37	1,044	837	165
2009年度	665	551	116	1,273	968	294
2010年度	661	482	179	1,264	728	526



## 犬猫パルボウイルス感染症の集団発生

### <パルボウイルス感染症について>

ライフポートのように、子犬子猫を集団飼育している環境で一番怖いのがパルボウイルス感染症です。感染し発症すると激しい嘔吐や下痢を繰り返し、亡くなってしまうことも多い病気です。ワクチンで予防できることもあり一般のご家庭ではあまり馴染みが無いかもしれません。しかし、ワクチン接種前の幼齢期に感染すると特に致命的で、当団体でも保護してから2週間以内にこの病気で亡くなってしまう子が多くいます。

### <猫>

猫の飼育管理については創業以来、吉田理事長が現場の第一線に立ち上記のパルボ対策はもちろんのこと、集団飼育に適した手法を構築してきましたが、一昨年末には次世代への引き継ぎということで飼育管理の現場業務を退きました。その後、稲葉副理事長をはじめ新体制での飼育管理をスタートし、よりよい形にしようということで投薬プログラムの変更、ワクチンプログラムの見直しなどを行いました。しかし一見適切に思えた変更が家庭動物向けの手法を主体とした変更だったため、結果としてライフポートのような劣悪な環境から来る子猫、集団飼育の子猫に対しては有効に働かず、パルボの集団感染と死亡率の上昇を招いてしまいました。また、そのことに対する認識の遅れからの外的対応を続け、子猫を死ぬに任せる結果になり、多数の犠牲につながってしまったものです。

2010年度	受入数	死亡数	死亡率	譲渡数
上半期	1,074	517	48.1%	337
下半期	190	9	4.7%	390
合計	1,264	526	41.6%	727

2009年度	受入数	死亡数	死亡率	譲渡数
上半期	1,018	209	20.5%	530
下半期	255	85	33.3%	438
合計	1,273	294	23.1%	968

幸いなことに吉田理事長主導のもと、飼育管理手法を元に戻すことや、追加のワクチンプログラム構築などの抜本的な改善により、9月以降下半期は猫のパルボの死亡率は5%弱にまで激減させることが出来、集団感染は終息に近づきました。

遅きに失したことは言うまでもありませんが、下半期に限って言えば例年よりも死亡率を下げるものが出来たので、今後の飼育に活かす所存です。

## <犬>

犬については、2009 年度後半から既にパルボウイルス感染症にかかっている子の受入を開始したことが死亡率上昇の要因の一つですが、未だ抜本的な解決策は無く、ワクチンプログラムの見直し、飼育環境の改善、飼育データの蓄積など改善に向けて奮闘中です。後ほど良いご報告ができるように取り組んで参ります。

2010 年度	受入数	死亡数	死亡率	譲渡数
上半期	310	88	28.4%	228
下半期	351	91	25.9%	254
合計	661	179	27.1%	481

2009 年度	受入数	死亡数	死亡率	譲渡数
上半期	322	40	12.4%	283
下半期	343	76	22.2%	268
合計	665	116	17.4%	551

私達は今回の経験から多くのことを学びました。犬猫が好きでこの活動をしている自分達にとって、十分な責任感・知識・判断力・実行力がなければ、「好き」だけではどうしようもないことを思い知らされました。

また一方、このような状況の中で担当職員に大きな負担をかけながらも受入れと譲渡を続けたことで、「一頭でも多くの命を救う」というライフボートの活動の原点だけは守り通せたのではないかと思います。生き延びた子たちの多くは、今ではやさしい里親さんの家で暮らしているのです。それが今期の言い訳の出来ない不始末の中での、私達のささやかな誇りです。

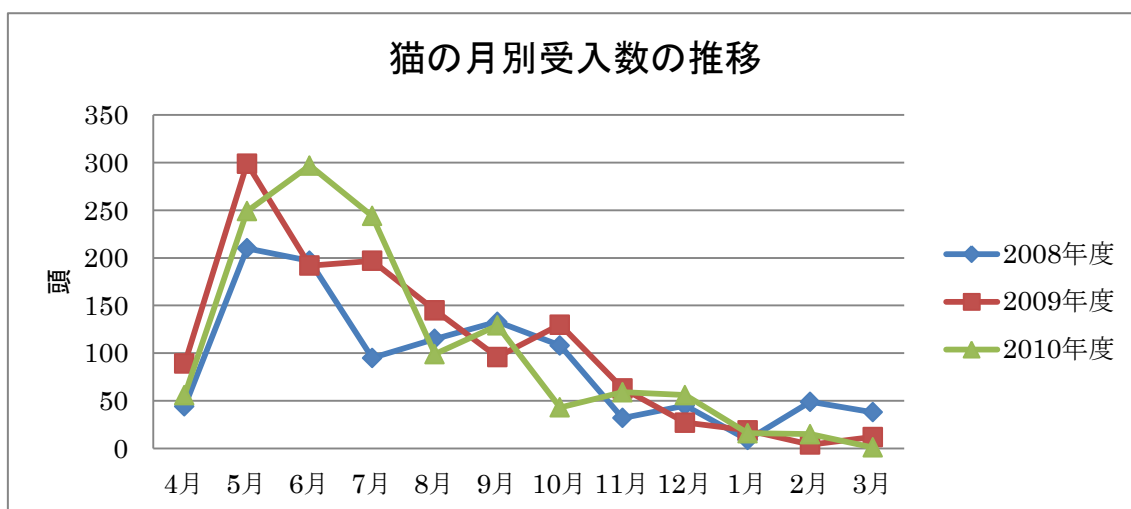
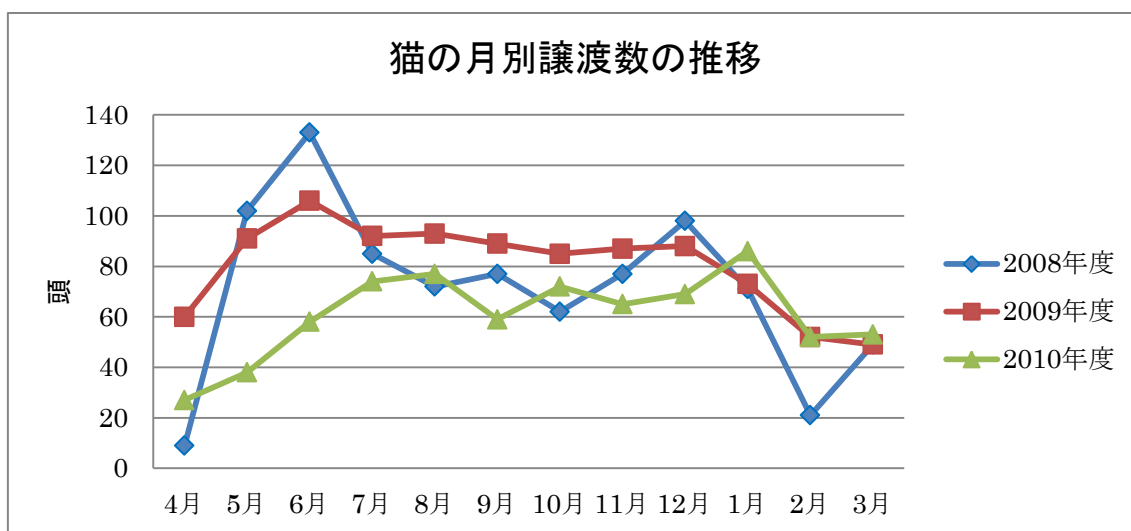
失った命は取り戻せないものの、今後は今回の経験を原体験として飼育している犬猫たちが特殊な環境下にあることを再認識し、これから受け入れる多くの命をこれまで以上に大事に育て、無事里親さんにお渡しする本来の活動に取り組んでまいります。

## 譲渡活動

### <猫>

4月5月の譲渡不振については、例年よりも猫が持ち込まれる時期が遅かったことが原因です。また6月はパルボの蔓延により健康な子猫が少なかったことが原因です。しかし、その後も例年並の譲渡には届きませんでした。1月以降は例年並みに回復しましたが、譲渡できずに残った数十頭の少年猫・成猫を抱えて新年度をスタートすることになりました。

新年度は、既に開始している猫のトライアル飼育の強化、ホームページでの紹介など団体内部での改善をはじめ、より多くの方に現状を知ってもらい、保護団体から猫を引き取るという選択肢を増やしていただくための活動を強化して参ります。

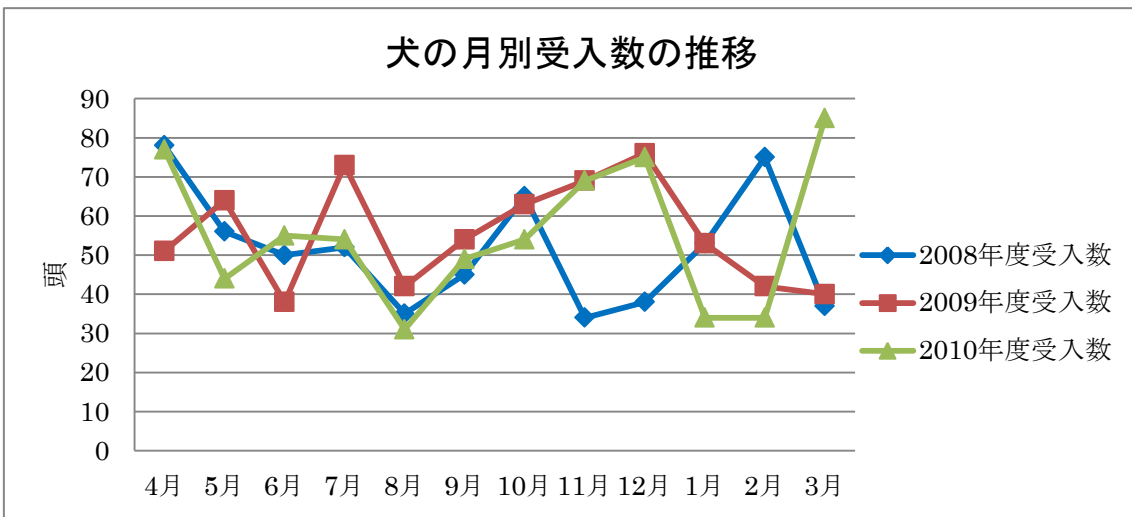
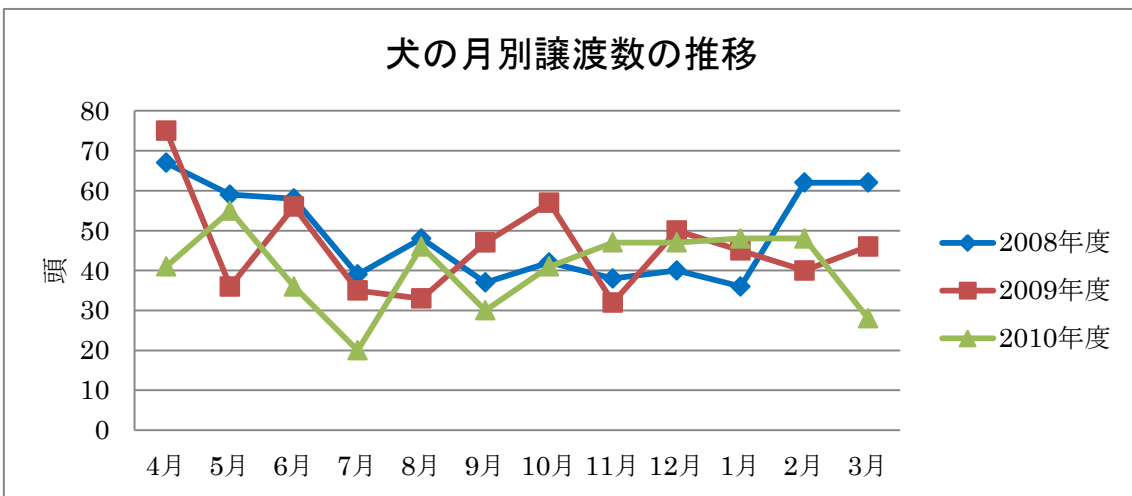


<犬>

子犬の譲渡については月毎に差はあるものの、ほぼ前年並みに推移しています。飼育施設の規模から飼育頭数の大幅増加は難しい現状ですが、喜ばしいことに子犬の行政への持ち込みは年々減少しています。

また、成犬(ライフポートで譲渡機会がなく大きくなってしまった犬)についても、トライアル飼育の導入などにより、一定の成果を挙げることが出来ました。

※ライフポートの受入が横ばいなのは、行政への持ち込み減を前記のとおり感染症にかかっている子も受け入れることで相殺しているためです。

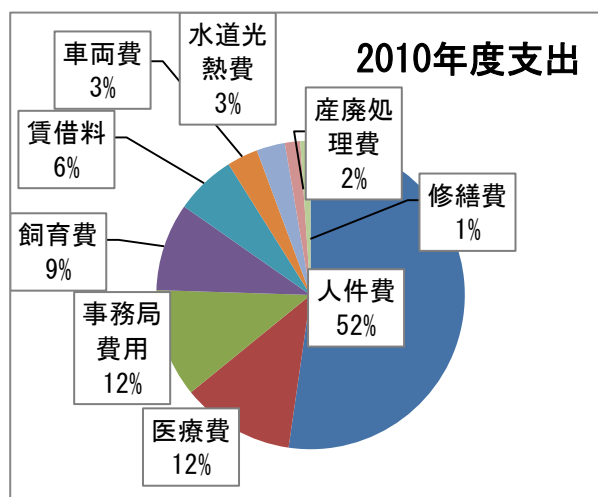
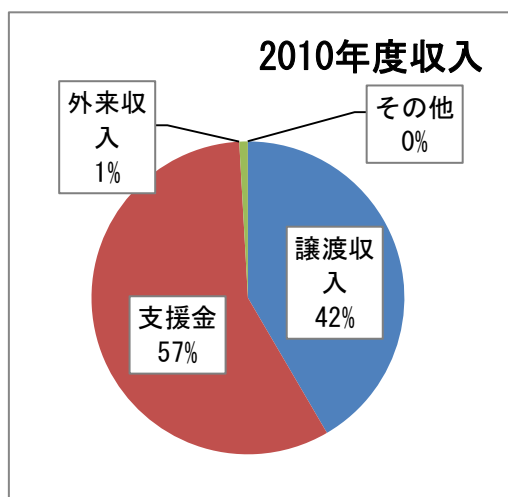


**決算** ※詳細は別添の決算書をご覧ください

2010年度の収支は表の通りです。一頭あたりの救命費用は受入ベースで3.7万円(2009年度3.6万円)、譲渡ベースで5.9万円(2009年度4.6万円)でした。初めにご報告したとおり、受入は例年並みに行えたものの、猫の死亡がそのまま費用の上昇(28%増)につながってしまいました。

収入(万円)	2009年度	2010年度
譲渡収入	3,618	2,903
支援金	3,873	4,019
外来収入	54	61
その他	1	1
合計	7,546	6,984

支出(万円)	2009年度	2010年度
人件費	3,532	3,711
医療費	1,222	841
事務局費用	692	808
飼育費	419	654
賃借料	317	452
車両費	217	231
水道光熱費	229	212
産廃処理費	256	114
修繕費	167	76
合計	7,051	7,099



## 新規自治体

受け入れ先自治体として船橋市と柏市保健所のご協力をいただけるようになりました。今後の実績で期待に沿えるよう頑張る所存です。

## 飼育環境の改善

本来ライフポートでの犬猫の死亡が多いのは、一つは悪い環境から来て既に病気になっていること、もう一つは施設内での集団飼育によって感染症が蔓延しやすいことの二つです。

今期は老朽化し不衛生になっていた手作りの小屋に代わってユニットハウス4基を導入し、飼育環境の改善を行いました。これにより、受入からの隔離、飼育、治療などを分離して行えるようになりました。また、元千葉県畜産総合研究センターの専門家を理事として迎え入れ、衛生管理・防疫体制の向上に向けて取り組んでいますので、今後の飼育に活かせるものと思います。

## 理事長を交代しました

2月の臨時総会でご報告したとおり、1月には創業代表である吉田淑子が理事に退き、新理事長に稲葉友治が就任しました。稲葉新理事長は猫の飼育での失敗を糧に、飼育管理はもちろんライフポートとして新しい取り組みを行うことで活動に貢献する所存です。

## 震災について

3月11日には大地震が発生しました。幸い当団体では人にも動物にも大きな被害はありませんでしたが、譲渡会日程や必要なフード・消耗品・医薬品などの購入に少なからず影響が出ています。

また、被災地では多くの動物たちが救いの手を待っている現状があります。当団体でも少しでも力になろうと、里親様からいただく譲渡費用のうち2,000円を被災動物支援に使うことを決めました。シェルターの現状から動物保護などの直接的な支援は難しいため、被災動物支援活動をする団体への寄付を行っています。

以上が2010年度の活動報告です。今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。